

# 能登キャンパス構想推進協議会「能登・祭りの環」 インターンシップ事業

団体名●「能登・祭りの環」インターンシップ事業実行委員会／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科教授)

## はじめに

奥能登地域では過疎高齢化が加速し、地域コミュニティの存続可否が深刻な課題となっている。奥能登地域は、「キリコ祭り」が多く伝承されており、地方創生の視点からも、その継承及び次世代人材の確保・育成が重要である。石川県では、2011年3月に金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学と奥能登2市2町、石川県が加盟して「能登キャンパス構想推進協議会」が設立され、「能登・祭りの環」インターンシップ事業がスタートし、現在も継続されている。

## 活動内容

「能登・祭りの環」インターンシップ事業は、奥能登2市2町の各1つの祭りが選定され、祭りへの参画を通じて学生たちの視点で奥能登地域の魅力を発信し、可能な範囲で地域課題への解決策に取り組む事業である。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によって事業対象の祭りがすべての中止となったため、学生も担ぎ手として参加できない状況であった。このため、事業内容を変更し、インターンシップ学生が奥能登地域について学びながら、祭りの様子や祭りに関わっている人々へのインタビューなどを中心に奥能登地域の魅力を発信するPR動画を制作する事業に変更した。今回の参加学生は、4大学(金沢大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢星稜大学女子短期大学部)9名であり、池田ゼミナール学生も参画している。新型コロナウイルス感染防止対応上、10月2日に事業キックオフミーティングがあり、事業説明やスケジュール確認がなされた。その後、祭り関連施設の見学(10月24日(土)、のと里山里海ミュージアム、輪島キリコ会館)、作成動画内容の検討(11月9日(月)、しいのき迎賓館)、祭り関係者(主催者、青年団など)へ祭りに対する想い等をインタビュー現地取材(12月19日(土)、輪島市・穴水町、12月20日(日)珠洲市・

能登町取材)、そして、現在、動画の編集作業を進めており、2021年3月中旬に完成予定である。



穴水町沖波区長へのインタビューの様子

## 成果、結果の考察

本来、参加学生にとっては能登の伝統文化である祭りについて実践的な学びの場であり、また他大学や地域の方々との交流の機会を得る事業でもあった。本年度は、祭りが中止となったため、実際にキリコ等を担ぐことはできなかったが、学生自身が各祭りの責任者や自治体担当者、地域住民へのインタビュー調査、ヒアリング調査、そしてそれらの画像撮影を通して、地域側の祭りへの思いや祭りの背景等についても理解を深めることができたものと考えられる。また、地域側にとっても、今回の学生たちの視点での制作動画の情報配信により、奥能登地域、そして祭りの魅力が配信され、今後の祭りを通しての交流人口につながるものと期待される。

## 今後の課題、展望

今年度は、残念ながらコロナ禍により学生の直接的な祭りへの参画が叶わなかった。来年以降の学生の学び、そして過疎高齢化が急進する奥能登地域への関係人口促進に向けて、県内外の複数大学連携・協働による更なる事業の継続・発展を期待したい。